

ペガサスとの出会い

キャプテン 田中晃

サッカーは10歳から始めており、現役を45年続けておりますが、ペガサスには50歳からお世話になっております。

50歳にもなると、自分のサッカー感があり、自由気ままにサッカーに参加してましたが、初めてのシニアリーグへの参加は自分にとって新鮮でした。50雀でいうと、全くの新人であり、雑巾がけから始まり、試合では若手として献身的に走りまくることが要求されます。

5年前のペガサス55は、素人集団であり、ボールを蹴れない、止めれない、走れない、メンバーはぎりぎり、今までにないチーム構成でした。

当時2部リーグで下位を独走していた中で、3年で2部リーグ優勝までのチームになれた過程がかつて経験にない、熱い3年間でした。ぼろ負けした後でも、反省会と称した飲み会で熱く語り合い、次戦に活かしていく。素人集団でも、意思疎通ができることでチームは見事に再生できることを実践できた3年でした。

サッカー好きが集まる、熱いメンバーに囲まれて、サッカーができましたこと。また、インテリも多く、紳士的なペガサス。当たり前のように接してきましたが、非常に恵まれていることに気づき、日常生活への活力を頂いてきたことに感謝しています。

今回の記念誌へのコメントを書くにあたって、5年間を振り返る良い機会となりました。

最後にまとめのコメントは残しません。To be continue.